

令和元年度第1回佐賀市立図書館協議会 議事録

開催日時：令和元年8月22日（木）10時25分～11時55分

開催場所：佐賀市立図書館2階 多目的ホール

出席者：【委員：7名】

白根会長、辻村邦子委員、辻村圭介委員、
古賀委員、福島委員、亀山委員、岩永委員
(欠席：野中委員、小林委員、西郡委員)

【事務局（図書館）：10名】

江頭館長、中村副館長、中島サービス係長、古賀サービス二係長、
石丸大和分館長、木村東与賀分館長、山口諸富分館長兼川副分館長、
原田富士分館長兼三瀬分館長、広報担当 豊福、協議会担当 矢ヶ部

【傍聴者：2名】

1. 開会

2. 新任委員の紹介

3. 館長挨拶

4. 会長挨拶

5. 議事

①副会長の選出

(会長)

・副会長だった委員の辞任に伴い、新任の副会長の選出をお願いしたい。自薦他薦があるか。

(挙手なし)

(会長)

・事務局から提案はあるか。

(事務局)

・前任の副会長も学校教育課推薦の委員にお願いをしていたので、今回もできれば学校教育課推薦の野中委員にお願いできればと考えている。本日は欠席されているが、ご本人からは委員の皆様からご要望があればお引き受けいたしますとのご連絡をいただいている。

(会長)

・野中委員に副会長をお願いするというので、ご承認いただけるか。

(異議なし)

(会長)

- ・承認とする。

②前回協議会報告

【前回の議事録による前回協議会報告】

【前回協議会での検討事項の対応状況報告】

(事務局)

●スマートフォン向けシステムの利用手順を作成して欲しい

- ・スマートフォン向け利用者用システムの利用案内を作成した。本館、分館、分室のカウンターに設置・配布を行っている。

●スマートフォンでの蔵書検索結果を15冊ずつ表示するように変更できないか。

●ホームページのカレンダーについて、開館時間がわかりやすいように変更できないか。

- ・システム改修の費用がかかるため、次のシステム更新の際に利用者の皆様のご意見を取り入れながら検討させていただきたい。

●予約の条件がわかりづらいので、ホームページなどで説明をして欲しい。

- ・予約できる資料の条件が複雑であり、資料詳細画面での説明が難しいため、資料詳細画面から予約について説明した別のページにリンクを貼ることで対応できないか、現在、システムの保守業者も含めて検討している。

●金曜シアターを継続して欲しい。頻度を減らして開催してはどうか。

- ・機材の老朽化と上映権付DVDが高価であるということや、司書が対応するための余裕がない状況にある。
- ・昨年からは司書が何人も辞めていくなかで、新たに司書を採用している。新人研修は行っているが、短期間で辞めていく司書もいるのが現状であり、なかなか現場で新人に教える余裕がない状況にある。そのため、本の貸し借りの際のミスや仕分けミスが多発している。
- ・そういった部分でも職員体制に余裕のない状況が続いており、金曜シアターに配置する司書の余裕がない。
- ・もし来年度以降、機材の予算やDVDの予算が付き、来年度から嘱託職員司書が会計年度任用職員に移行した際、もし人的な余裕ができれば復活することも検討できる。ただ、現状では会計年度任用職員についてはまだ詳細が決まっていない。もし会計年度任用職員の配置に余裕ができれば、その時点であらためて検討させていただきたい。
- ・そのため金曜シアターについては一旦終了することとさせていただきたい。

●教科書の設置場所のお知らせを掲示して欲しい

- ・児童カウンターの壁面にお知らせを掲示することで対応した。この方法にしてからは切り抜きや紛失の被害も無く、利用者からの苦情等もあっていない。

●「佐賀市子どもの読書活動推進計画」に、3～6ヶ月児セミナーに図書館職員が出向いて読み語りの大切さを伝えると記載があるが、セミナー自体が予約制なので参加する人が限られているため、病院で行われている3ヶ月健診でも何か取り組みを行って欲しい。

●可能であれば、他の時期のセミナーにも参加して欲しい。

●年に一度くらい、ほほえみ館でやっているセミナーを図書館でも開催して欲しい。

・児童担当と係長が実際のセミナーを見学した。セミナーでは、読み聞かせの大切さを説明されており、冊子「えほんであそぼ」も配布され紹介されていた。

・健康づくり課の職員や子どもの本屋ピピンの方々にお話を伺ったところ、3～6ヶ月児セミナーが一番良いだろうとのことだった。

・また道具等の問題があるため、図書館でセミナーをするのは難しいとのことだった。病院で行われている3ヶ月健診での取り組みも調整が難しいと考えている。

・別のアプローチとして、図書館から保育園・幼稚園に出向き、おはなし会用の資料についてご紹介し活用してもらおうようお願いした。

・また、他の部署での取組として、健康づくり課で行っている1歳6ヶ月健診、3歳6ヶ月健診では、県の家庭内での読み聞かせを習慣づけるための事業として「読み聞かせノート」を配布している。公民館では、子育て中の方を対象とした読み聞かせ講座や子育てサロンの中で読み聞かせ等を行っている。今後も他部署と連携し取り組んでいきたい。

●学校が「調べる学習」に取組みやすくなるような方法を考えて欲しい

●「佐賀市子どもの読書活動推進計画」についても、学校が「調べる学習」に取り組みやすくなるための方策を盛り込んで欲しい

・調べる学習のポイントについて先生用と児童用のチェックシートを作成し、今回のモデル校である高木瀬小学校の図書主任の先生などに配布・説明し、活用していただくよう依頼した。モデル校以外の学校にもチェックシートを配布し、市内53校全てに周知を行った。

●学校の読書ボランティアの連絡会議の開催を市で呼びかけてもらえないか

・既に「佐賀県親と子の読書会協議会」という協議会があり、各学校の読書ボランティアグループも入会されている。また、県の読み聞かせグループ等の育成および活動支援の事業で、「読み聞かせ講座」や「読み聞かせスキルアップ講習会」が行われており、読み聞かせなどの読書活動についての情報交換の場も設けられている。これらの事業をぜひ活用してもらおうよう周知していく。

・また、市立図書館でも「小中学生への読み語り講座」を10月27日と11月24日に開催予定であり、小中学校へポスターや申し込み用紙を配布する。ぜひ多くの皆様にご参加いただき、その中でも情報交換を行っていきたい。

●「佐賀市子どもの読書活動推進計画」策定についての報告

・昨年度、図書館協議会委員の皆様のご意見やパブリックコメントなども踏まえ、今年4月

から令和5年度までの5ヵ年の計画として策定した。

- ・第5章に今後の推進目標および新たな取り組みとして、保育園・幼稚園、学校との連携や「市立図書館での小中高校生向けの子ども司書講座」の開催について記載した。また、計画の数値目標について、図書館協議会でご意見を踏まえて4項目を掲げた。
- ・佐賀市の子どもたちが、学校、家庭、地域において意欲的に読書に親しみ、生涯にわたって続く読書習慣を身につけることができる環境づくりに取り組んでいく。

【質疑】

(委員)

- ・昨年からの司書の退職が多いということだが、なぜ退職が増えているのか。どのような状況なのかお伺いしたい。

(事務局)

- ・ひとつの理由として、本人の認識と実務とのギャップがある。思っていたより大変だったり、仕事が覚えられなかったりしたことを理由として退職した司書がいた。司書資格を取るうえで図書館について学んではいるが、実際に現場で利用者の方と接しながら働くなかで、思ったより大変であるということもある。

(事務局)

- ・佐賀市立図書館には嘱託職員の司書が55名いる。制度上任期が5年となっており6年目は継続雇用できないが、来年度から会計年度任用職員制度が始まると5年の制限はなくなる。定年がなくなり長い期間働けるようになると、多少改善できるのではないかと考えている。

(委員)

- ・本人の認識と現場とのギャップに起因して退職が増えているということだと思うが、それは誰にでも起こり得ることだと思う。働く環境の改善や労働の負担軽減は考えてあるか。

(事務局)

- ・他の図書館で務めたことがある司書は、業務のやり方が違っても過去の経験を活かして自分でギャップを埋めていくことができている。初めて図書館に勤めた司書については、事前研修を行ってはいるが、OJTを行う体制や方法について大きな課題があるとは考えている。ひとりひとりにあった業務の進め方や学ばせ方があると思うが、そこまで余裕をもって指導できていない現状はある。
- ・また、ギャップを生じさせないためには、募集の時点で佐賀市立図書館の業務についても少し具体的に説明する必要があると考えている。特に佐賀市立図書館を利用したことがない人については、イメージが掴みにくいと思うため、そのあたりを上手く伝えたい。

(委員)

- ・司書の方は図書館になくてはならない存在だと思う。ぜひ、対応をお願いしたい。

(会長)

- ・佐賀市立図書館は全国的に見ても非常に貸し出しが多い図書館である。利用が多いことも、業務量などの面でギャップが生じる原因だと思う。慣れるまでが大変で、そこを乗り越え

られると継続して勤務できるのではないか。

- ・また、5年目の司書であっても本当に仕事に熟達した状況ではなく、教えながら仕事をすることは負担になる。そのため、日常業務中での指導が十分できなかった状況もあるのではないか。制度が変わって雇用年限がなくなり、10年以上勤務しているようなベテランの司書が増えると、そのあたりが変わってくるのではないか。
- ・ひとつ気になるのは、待遇が変わると揉めることもある。佐賀市では報酬や勤務体制の面はどうか。

(事務局)

- ・現状の嘱託職員報酬は近隣の市町村に比べると高いが、人員体制は厳しいと感じている。
- ・本館は4人チームでシフト制を組んでおり、早番と遅番があるため、一人休むと負担が非常に増える。また、分室は2名体制となっているが、一人休むと本館から一人応援に行く必要がある。そうした場合、本館のカウンター担当が一人減ってしまう。非常にギリギリの人員体制で業務を回している現状がある。

(会長)

- ・司書の待遇の向上を期待したい。

(委員)

- ・塾の講師がyoutubeで授業の様子を撮影し、経済的な理由で塾に来れない子どもたちのために無料で配信する試みを行っているのを、NHKの番組で取り上げていた。読み聞かせに関するセミナーやイベントを開催する際、若い人たちに対してはSNSやyoutubeなどを活用して、その様子を配信することで興味を持ってもらえるのではないか。
- ・ブックスタートとあわせ、3歳・4歳児へのフォローを行う試みを行っている自治体もあると聞いた。ちょうど読書の楽しさがわかるようになる時期なので、そのような試みも検討していただきたい。

(事務局)

- ・ホームページは力を入れているが、SNSの活用まではできていない。今後検討していきたい。
- ・ブックスタートについては、佐賀市の施策として実施しないことになっている。代わりに3~6ヵ月セミナーで絵本購入の補助券を配る試みを行っている。保育園・幼稚園との連携については先ほど少し申し上げたように、図書館から訪問してお願いを行っている。

(事務局)

- ・園長先生達の会議に出席し、団体貸出やおはなし会用のパネルシアターの貸出、図書館のおはなし会について説明を行った。幼稚園・保育園では、絵本に親しむことについて大切にしていると感じた。
- ・市立の保育所には個別に出向いて保育士にも話を聞いた。団体貸出はよく利用しているとのことだったが、読み聞かせを自己流で行っているのもので、正しい方法なのか、よりよい方法がないかなどを質問された。
- ・県の事業で読み聞かせグループの方が保育園や幼稚園に出向き、読み聞かせの講習や先生

や保育士の質問に答えるような試みを行っているため、市立図書館の読み聞かせ講座と併せて紹介を行った。

- ・様々な部署の事業について、十分に周知できていないと感じた。各団体や部署で行っている事業を把握して連携するとともに、保育園や幼稚園に対して周知や働きかけを行ってきたい。
- ・図書館のおはなし会については、お昼寝の時間やお昼寝後のおやつとの時間と重なっているため、参加が難しいとのことだった。

(会長)

- ・図書館によっては「ブックセカンド」として3歳くらいの子に本をプレゼントしているところもあるが、各自自治体の事情を考慮したうえで効果的な施策に取り組んでほしい。3歳から4歳くらいの子どもたちは、本当に本の面白さがわかるようになる時期である。その後の読書への関心に繋がる時期なので、しっかり取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・教科書の配置の事情については十分に理解できた。ただ、教科書が児童カウンターの奥でカーテンに隠れているのは寂しいと感じている。将来的に利用マナーが向上すれば、調べものカウンターなどに置いていただければと思う。

(会長)

- ・カーテンを開けることなどは、早めに検討することが可能ではないか。善処していただければと思う。

③平成30年度事業報告

【資料に基づく事業報告】

(事務局)

- ・総括として、全体の概要を説明する。
- ・全館の来館者数は465,007人で、平成29年度に比べて8,236人減少した。平成30年度の開館日数は289日で、一日あたり平均で約1,600人が来館した。
- ・貸出数は全館で1,712,158点となっており、昨年度より12,061点の減少となった。一日平均では126点の減少となった。
- ・一方で、予約点数やレファレンス件数は増加している。平成30年度の予約点数は174,878点で、平成29年度の149,173点に比べて25,705点もの増となった。平成30年度に全ての館で受付したレファレンスの件数は41,700件で、平成29年度に比べて5,353件増えた。
- ・レファレンス件数は増えている現状だが、本館のレファレンスの担当者は4人しかいない。イベントについても、児童のイベントは児童担当者4人で、広報のイベントも広報担当者2人で実施している。カウンターの職員もぎりぎりの状態で回しているという現状だが、イベントについても職員・嘱託職員ともぎりぎりの状況でやっているという現状がある。
- ・また、レファレンスやイベントも重要な部分ではあるが、図書館は資料の充実も重要な部分である。新しい本や話題の本などがないと利用者増に繋がらないため、魅力ある資料を

揃えていく必要がある。その資料購入費については、平成30年度もなんとか5千万円を保っている。今後もよりよい選書をしながら進めていきたい。

- ・先ほど前回協議会の報告の中でも触れたが、「佐賀市子どもの読書活動推進計画」を策定した。これは「子どもたちが読書に親しむための環境づくり」のために策定したもので、計画は平成31年4月から令和6年3月31年までの5年間で、図書館、学校教育課、健康づくり課の3課で連携しながら、計画に基づき事業を進めていく。

【質疑】

(質疑なし)

④令和元年度運営について

【資料に基づく事業報告】

(事務局)

- ・4月から事業を進めているため既に終了したイベントもあるが、主なものや今後実施するものを紹介する。
- 本館の運営について
 - ・一日こども図書館長、本・活かす市、手作り絵本教室、図書館たんけん隊、図書館を使った調べる学習、データベース講座、図書館寄席、佐賀大学公開講座、読み語りボランティア養成講座、冬のあったかおはなし会、対面朗読ボランティア養成講座、などをイベントとして実施する。
 - ・先日8月18日の日曜日に開催した「夏休み理科自由研究 君を助け隊 まとめ編」には、亀山委員に視察見学に来ていただいた。ありがとうございました。
 - ・自動車図書館については13箇所にはステーションを増やし、今年から新たに富士大和温泉病院にも運行している。富士大和温泉病院のステーションの4月から8月までの利用者は60人で、貸し出し点数も147点となっており、多くの皆様にご利用いただいている。
 - ・団体貸し出しについては、一般団体78、学校団体63、合計141団体を対象に、図書資料、パネルシアター、大型制作資料の貸し出しを行っている。
 - ・広報関係では、今年も「佐賀市立図書館だより」を近隣の事業所約4,000箇所にポスティングした。
- 各分館の運営について
 - ・各分館の行事予定は資料のとおり。分館も少ない人員で運営しており、各分館の職員数だけあらためてお伝えしておく。
 - ◎大和館 8人
 - ◎諸富館 5人
 - ◎東与賀館 5人
 - ◎富士館 4人
 - ◎三瀬館 4人
 - ◎川副館 4人

- ・三瀬館と川副館については分館長が常駐していないため、実質的には、三瀬館 3 人、川副館 3 人ということになる。

【質疑】

(委員)

- ・「君を助け隊」を見学した。このような行事はこれからも続けて欲しいと感じた。いくつもの新聞に取り上げられていた。

(事務局)

- ・長時間視察頂いてありがとうございました。「君を助け隊」は広報担当 2 名で調整をしており、佐賀科学少年団にお願いして理科の専門の先生に来ていただいている。「ポイント編」と「まとめ編」を開催しており、今年も好評だった。唐津や県外からの参加者もあり、できればずっと続けていきたいと考えている。

(委員)

- ・分室ではスタンプラリーが行われているということだが、分室の職員が準備しているのか。

(事務局)

- ・6 分室には職員が 2 名ずつ配置されている。早い段階から企画準備を行い、分室の職員で役割分担しながら業務の合間や本館で業務を行う日などに、作業をしている。

(委員)

- ・職員の体制が厳しいなか準備も大変だと思うが、子どもたちが楽しそうにスタンプラリーに参加している姿を見かけた。

(会長)

- ・佐賀市立図書館の取り組みが子どもたちに届いているのは嬉しいことだと思う。

⑤利用者アンケート結果について

【資料に基づく報告】

(事務局)

- ・今年度は分館での回答者と 12 歳以下の回答者の比率が例年より高くなっている。
- ・利用しているサービスの傾向について例年と比べて大きな変化はないが、「児童コーナーの利用(51%)」と「読み聞かせへの参加(25%)」の割合が若干高くなっている。12 歳以下の回答者の比率が高くなったことが要因だと思われる。全体としては、例年と同じく「本や雑誌のを借りる(95%)」や「本や雑誌の館内での閲覧(75%)」が多くなっている。
- ・充実させて欲しいサービスの傾向については、例年と同じく「本や雑誌の貸出(34%)」、「AV 資料の貸出(21%)」についての割合が多い。また、「児童コーナー(9%)」についての割合が若干増加している。12 歳以下の回答者の比率が高くなったことが要因だと思われる。
- ・各サービスの満足度についても、例年とほぼ同じ傾向である。「満足・やや満足」と回答した人が多いものは、「職員の対応(85%)」「図書館の居心地(84%)」「貸出返却サービスの利用のしやすさ(79%)」や「総合的な評価(80%)」である。「不満・やや不満」と回答した人が

多いのは、「CD、DVD、ビデオの充実(23%)」「本、雑誌、新聞の充実(10%)」「開館時間、開館日数(20%)」である。ただし、いずれのサービスにおいても「満足・やや満足」と回答した人が「不満・やや不満」と回答した人の数を上回っている。

- ・今年度から図書館に来る頻度の変化に関する設問を設けた。自由記述欄を設け、変化した場合の理由も記載して頂いている。特に利用が減少した人の理由について把握をする意図で設問を設けた。
- ・来館者を対象としていることもあり、「増えた(45%)」「変わらない(36%)」と回答した人の割合が多くなっている。
- ・減った理由として多かったのは、「就職した・仕事が忙しくなった」や「こどものために利用していたが、こどもが大きくなったために利用しなくなった」という回答だった。増えた理由としては、「退職や子育てが終わって自由な時間ができた」「子どもや孫ができたため」という回答などがあつた。
- ・ひとつの利用者のパターンとして、「小さい頃は利用していたが、勉強や就職で忙しくなって利用が減り、子どもが出来ると子どもを連れて図書館に来るようになる。そして子どもが大きくなると再び利用が減り、仕事や子育てがひと段落すると再び図書館に来る」という流れがあるのではないかと考えている。

【質疑】

(会長)

- ・ライフサイクルと図書館の利用の関係が見えたのは面白かったと思う。

(委員)

- ・AV関係の利用のしやすさについて、他の項目より不満足度やわからないという回答が多い。公立図書館で取り扱える資料について、権利の関係で一般に販売されているDVDなどより高額であるのもネックだと思うが、利用者のニーズについてはどうやって把握しているのか。

(事務局)

- ・利用統計や世の中の動きを見ながら担当で購入手続きをする資料を選んでいる。
- ・視聴覚資料は本と違いリクエストに応えるのは難しいため、リクエストの受付は行っていないが、窓口で相談されることなどはある。ただ、著作権関係の処理ができるものしか資料として取り扱いできないため、市民から相談されても買えないものも多い。
- ・そのため、利用者の要望にすべて応えることはできないが、できるだけニーズに沿った資料を購入手続きするように努めている。

(委員)

- ・権利関係で難しいところがあるのは理解した。市民が求めているものと資料に乖離があるのではないかと考えて質問した。
- ・子どもは周りの動くものに対して関心を持つ。何かよい方法があればよいと思う。

(会長)

- ・図書館では権利関係の問題もあり、市民の要望に全て応えるわけにはいかない。大変難しいところだと思う。

(委員)

- ・開館時間について、自分が想定していたより満足度が高かった。個人的にはあまり満足していない。他の施設は9時に開館しているところもあり、植栽ボランティアをしていると9時半くらいから待っている人もいる。多目的ホール等を借りるときも、準備のために早く入れると10時からイベントを開始できる。職員数が少ない中で難しいとは思いますが、そのような意見があるのもお知らせしておく。

(会長)

- ・開館前には書架整理などの作業も行っているため、なかなか難しいところはあると思う。

(事務局)

- ・開館時間についてご意見があるのは承知している。会長がおっしゃられたように、開館準備にかなりの時間が必要である。ポスト返却された資料の処理や書架整理、44誌ある新聞の整理や配置などを行っている。9時や9時半から開館するとなると、かなり無理があるのが現状である。また、条例や施行規則まで変えなければならないので難しい。
- ・ただ、東側玄関は9時45分頃には開けるようにしている。返却処理や書架整理を行っているため書架には入れないが、ロビーや学習室、囲碁将棋コーナー、大集会室や多目的ホールなどには入ることができる。

(会長)

- ・人手の問題が大きいと思う。

⑥サービス計画成果指標について

【資料に基づく報告】

(事務局)

- ・平成27年度末に「佐賀市立図書館第2次サービス計画」を策定した。平成28年度から令和2年度まで計画となっており、そのなかで成果指標を定めている。
- ・平成29年度と平成30年度の数値を比較すると、増加しているのは「利用者登録者数」「レファレンス件数」「レファレンス事例のデータベース登録数」となっている。横這いなのは「総貸出点数」と「人口ひとりあたりの貸出件数」となっている。その他のものが減少している。
- ・「レファレンス件数」については、平成28年度までは分室や本館案内カウンターなどでの件数をカウントしていなかったが、平成29年度からはこれらを把握してカウントするようにしている。比較のため、括弧内の件数は平成28年度までと同じ方法でカウントしている。
- ・「ボランティアの登録者数」については、図書館で実施したボランティア養成講座を受講した人のうち、図書館にボランティア登録し活動している人の数を記載している。この数を把握できているのが「対面朗読ボランティア養成講座」しかないため、現在は対面朗読

ボランティアの数だけをカウントしている。現在では図書館でのボランティア活動は多岐にわたっているため、次回のサービス計画策定の際には指標の見直しも必要だと考えている。

- ・現在のサービス計画は令和2年度までとなっている。次のサービス計画については、協議会や多くの方の意見を聞きながら策定していくことになるため、ご協力いただければと思う。

【質疑】

(委員)

- ・20代の利用率が年々下がってきている。目標値を達成するために、事業などで対策を行っているか。

(事務局)

- ・若い世代の利用を伸ばすのは非常に難しいというなかで、目標値を高く設定したところはある。アンケートの結果の説明でも少し話に出たが、幼いころの図書館利用の経験は、その後の図書館利用に繋がっていくと考えている。ただ、一度図書館から離れてしまった若い世代が図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントが少ないという実態はある。
- ・来年度の目標値の達成は難しいかもしれないが、次に繋げるための分析などを続けていきたい。

(委員)

- ・1階のカフェがイベントをやっているとき、若い人たちが多く来ているように思う。何かタイアップなどはしているか。

(事務局)

- ・喫茶コーナーが主催で年に2回ほどイベントを行っている。その日の来館者は増えていますが、貸出点数はあまり伸びていない。イベントをどう活用していくか、仕掛け方については改善の余地があると思う。確かに図書館に普段来られていない方が多く来られていると感じている。

(事務局)

- ・20代を対象にしたイベントは少ないが、小説のコーナーなどは20代30代の利用が多い印象がある。インターネットからの予約が増えており、人気の本や話題の本はたくさん予約が入っている。イベントも大切だが、イベントだけを行っても若い人は読みたい本や魅力のある本がないと図書館に魅力を感じない。図書館は資料の充実が非常に重要だと考えており、資料が充実することで若い世代の利用も増えると考えている。

(会長)

- ・イベントと図書館の資料を結びつけるような試みが必要ではないかと思う。

●その他

(会長)

- ・他に何か意見などはあるか。

(委員)

- ・新聞のコラムをいくつか紹介したい。[ニューヨーク公共図書館と図書館バックヤードの紹介について。コラムの読上については省略]

(委員)

- ・図書館から委員に送付する文書について、薄いものについては小さい封筒で送っていただいて構わない。費用の削減のためにも、節約していただければと思う。
- ・「図書館への手紙」のなかで、本の配置について妊娠・出産に関する本が書架の下の段にあると妊婦にとっては取りづらいため、上の方の段において欲しいという意見があった。これに対して、重い本なので下に置かざるを得ず、職員に声をかけてもらえれば都度対応するとの回答だった。
- ・妊婦にとっては非常に取りづらい場所にあるため、ブックトラックなどを活用するなどして何か対応ができないか。子どもの利用を伸ばすためには、その親にとっても利用しやすい図書館である必要があると思う。妊婦のときに図書館の利用を諦めるようなことがないよう、利用しやすい配架を工夫してほしい。
- ・手遊びの本が児童コーナーではなく保育のコーナーにあったり、絵本の選び方の本が図書館に関する本のコーナーにあたりする。子育てに関する本を、企画展示の形などでもいいので、わかりやすい場所に配置してほしい。そういう環境をつくるのが、子どもの図書館利用につながると思う。

(会長)

- ・ぜひ善処していただきたい。

(委員)

- ・図書館で絵本の原画の展示などを行うと家族で利用するきっかけとなり、絵本の貸出などにもつながるのではないかと思う。また、チラシを置く場所にも、そういったイベントに関するチラシやパンフレットを置いてほしい。

(会長)

- ・他に意見はないか。
- ・特にないようなので、事務局にお返しする。

(事務局)

- ・これで令和元年度第1回佐賀市立図書館協議会を終了する。ありがとうございました。